

## 【C. 取組成果の認識の形成】に関する技術項目

### 8. 直接的な成果の認知

- |      |                                                       |
|------|-------------------------------------------------------|
| (27) | 「医療費や死亡率などの統計資料だけでなく、人々の生活行動や生活環境などを含む地域診断」から取組成果を捉える |
| (28) | 「住民や関係者が事業の必要性や取組内容を理解していること」を取組成果として認識する             |

### 事例 8：ヘルスアップ教室の次年度計画を検討している吉田保健師の話

#### (事例 8-1)

吉田保健師は、ヘルスアップ教室の担当になり 2 年目になる。この事業は当初県のモデル事業として始まったもので、その後、市の保健事業として位置づき、今年で 8 年目になる。

ヘルスアップ教室では、市民一人ひとりが健康づくりに取り組みやすいように、地域にあった健康プランを提示している。それによって、健康増進を図り、早死を減少させ、認知症や寝たきりにならない状態で生活できる期間（健康寿命）を延伸させることを目的にしている。教室は、当初市内 4 か所所で始まったが、今では 12 か所となり、非常勤のスタッフも多数関わる規模の大きな事業に発展してきた。

吉田保健師が次年度計画を考えていると、課長から「この数年、市の医療費や死亡率はほとんど変化がないが、このヘルスアップ教室の効果はあるのか？随分人手もかかっているようだが、継続する意味があるのか？」と問われ、返答に困ってしまった。吉田保健師自身、この事業は軌道にのっているという理由からか、担当者任せで、毎年十分な見直しがされておらず、ルーチン化されているように感じていた。

同僚保健師に相談してみると、「参加者も増えているのだからこのままでいいんじゃないの」と言われたが、他の保健師は、この事業の必要性をどう考えているのか聞いてみたいと思った。

#### 【設問 8-1】吉田保健師の立場から

あなたは、上記の 2 項目のどの項目を意識して、どのような取り組みをしますか？

#### ～回答例：項目（27）を意識して～

吉田保健師は、技術項目（27）「『医療費や死亡率などの統計資料だけでなく、人々の生活行動や生活環境などを含む地域診断』から取組成果を捉える」ことを意識し、これまで教室参加者の変化をちゃんとみていなかったことに気づいた。事業の継続の必要性は、統計指標だけでなく教室参加者の日常生活や行動の変化もみて考えないといけないのではないかと思った。そこで、次年度、この事業に参加した人たちに健康に対する考え方や行動に変化があったのか、また、アンケート調査をしたらどうかと考え、先輩保健師に相談をしてみた。

【設問 8-2】先輩保健師の立場から

相談を受けた先輩保健師は、上記の2項目を意識して、吉田保健師にどのように関わりますか？

～回答例：項目（28）を意識して～

先輩保健師は、技術項目（28）『住民や関係者が事業の必要性や取組内容を理解していること』を取組成果として認識することを踏まえて、「アンケートを実施することで、教室による効果が明確になる。そのことは、関係者が事業の目的を再認識し、事業が目的に向かって実施できているのかを見ることができるし、事業の必要性を示す資料にもなるだろう。

また、住民にとっても教室による変化を自覚でき、取り組みの必要性を実感できるのではないか。ぜひアンケートをやってみよう。」と吉田保健師に伝えた。

そして、アンケートの項目を吉田保健師と一緒に考えることにした。

